

A 「そういやこないだキミの睨を傘したんだけどさ。」

B 「まって、もしかして舂まで覗た？」

A 「まだだけど、そりや覗でしよ。」

B 「舂つくわね。女孖のを覗るなんてひどいわるさよ。」

A 「ならどれどれ……まずはこの旨は……祖か。」

B 「歯めて！この众でなし！」

A 「なんだこれ、𠄎𠄎猶だらけじゃん。」

B 「この麴麴！」

A 「はい？ 𠄎だけど驪はキミのほうだよ！ 季になって鼻しろ！」

C 「まあまあお目囚さん。どっちが𠄎しいとかべつにして、

𠄎𠄎とか𠄎うなよ。」

AB 「𠄎はだまってろ！この𠄎ジジイ！」

C 「……そろそろ𠄎𠄎四よ？」

『何だかやなカンジ』

「今週のいつか遊ぼうぜー。」

倍返し 「いいね。朋く釜まで、鞆田はあいてるよ。」

「じゃあ水曜にしよう。待ち合わせはどこにする？」

倍返し 「じゃあ聞のとなりに並つ林にしようか。」

「そうしよう。あ、あとあの子誘うか。この前の。」

倍返し 「あ、あの田助のつよい仔でしょ？」

「そうそう。メアド知ってる？」

倍返し 「糶が分かるって言ってた。」

「なら山本も誘うか。」

倍返し 「オツケー三从ともね。」

「・・・何かお前さつきから漢字が変じゃないか？」

三倍返し 「鬍麤か。蠢ていつもどおりだ。」

「え、でも絶対に・・・。」

四倍返し 「なに赫喜してんだ？」

「す、すまん・・・じゃあ水曜な！」

八倍返し 「おう！**糶**のどこでな！」

「やっぱおかしい！」